

放課後等デイサービス自己評価 結果報告 (令和4年3月)

放課後等デイサービス心風

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	改善目標 工夫している点等
環境・体制整備	1	利用定員は指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・ワンフロアという事を良く活かしているし、それに伴う悪い環境も見直し続ける事が出来ている。 ・子ども・職員の人数によっては窮屈に感じられる時もあるが、活動場所を工夫している。 ・適切な広さを確保している。部屋全体を使ったり区切ったりして工夫して遊んでいる。 ・活動を組む際に出来るだけ活動を行う場所が近い所にならないようにしている。また人数が多い活動の時に狭い場所で行う事が無いように活動場所を分けている。
	2	職員の配置や専門性は適切であるか	80%	20%		<ul style="list-style-type: none"> ・介護(車イスの使い方や移乗の仕方など)に関する学びの場がもっと欲しい。 ・計画を立てる時点で、職員配置や支援内容もしっかり考慮されていると思う。 ・有資格者が多い。新たな資格取得にも積極的である。法人内にも有資格者が多いので、ヘルプで来てくれる職員も専門性が高い。 ・身体を動かす事が得意な職員・座って活動を行う事が得意な職員、音楽が得意な職員等で活動出来るだけ分けている。また遊びの待ち時間の対応も担当を決めるようにして工夫している。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置、必要に応じたバリアフリー化の配慮など適切になされているか	60%		40%	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体の子もいるので、緊急時を考え、車椅子を1台でもしっかりしたもの(ブレーキ、ティッピングレバー)があるといいと思う。 ・段差がある所は、気を付けて対応している。 ・玄関や階段等必要な場所に手すりを設置している。 ・子どもが遊んでいて危険な所や空間がある時にはミーティングで問題点を出し、その度に子どもが怪我をしないよう場所の改善を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	80%	20%		<ul style="list-style-type: none"> ・役職に限らず行えている。 ・初任者から管理者まで皆で意見を出し合い業務改善を行っている。 ・職員が多く参加出来る日時にPDCAサイクルを行う事が出来ている。またやむを得ず人数が揃わない時でも記録を残し欠席者にも共有出来るようにしている。
	5	保護者向け評価表等アンケート調査を実施して保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	60%	20%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の意向を把握し切れていないため、まだまだ事業所の課題が出てくるのではと思うが、その都度改善に努めていきたい。 ・毎年1回保護者にアンケートを答えて頂き、課題があれば改善に努めている。 ・全員分の保護者からの意向をチーム全体で共有する事が出来ていると言われると難しい現状があるが、保護者面談時の記録等を職員全員で見直す時間は出来ていると思う。
	6	この自己評価の結果を、お便りやホームページ等で公開しているか	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで公開している。希望者には配布も行っている。 ・毎年1回は公表している。

適切な支援の提供	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか	60%	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士に来て頂き、支援に繋げている。 ・評価機関による外部評価は行っていないが、外部の専門職に来て頂き、支援の助言を受けている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・とても色々な研修へ参加させてもらっている。 ・法人内研修や外部研修が充実しており、常勤だけでなく非常勤も参加し資質向上を図っている。 ・毎月1回以上は午前中に全事業所の職員が集まり、色々な研修を受け、働く上で大切な事や必要な事を学ばせてもらっている。また研修後、事業所で受講した研修の内容の振り返りを行う事がある。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・今後はこちらの意向を保護者とよりすり合わせていけたらと思う。 ・保護者との面談を半年に1回ずつ行い個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者の方に2種類のアセスメントツールに答えて頂いている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・1番力を入れている所であるので中身も濃いものとなっている。 ・個人で活動プログラムを作成し、複数人で活動プログラムのチェックを行っている。 ・週1回程度チームで協力し合いながら活動プログラムを立てている。活動プログラムが無い日が起こらないよう職員ひとりひとりが自分の起案した日を書き出し確認している。また活動プログラムの見直しは出勤している職員達で行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムの起案者が複数いる事により達成されている。 ・多様な活動を通して個別支援計画が達成出来るよう遊びの内容を工夫している。 ・1つのねらいに対して複数の遊びで支援しているが、子どもにどんな遊びか理解してもらうためにも、最低でも二、三回は続けて同じ遊びを設定している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じ、課題を決め細やかな支援を行っているか	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇には平日に出来ないような制作やお出かけが組まれている。 ・利用日ごとに子どもそれぞれの目標を設定し達成出来るよう支援を行っている。 ・平日なら2つ、休日なら4つ程度を目安に子どもが取り組む活動を決めている。活動プログラムの起案者が支援開始前のミーティングで、子どもにどのように課題に取り組んでほしいのか説明し、支援を行う担当者も決めている。
	14	子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて個別支援計画を作成しているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに合わせて発語音楽療法やコグトレ等の個別活動を設定している。 ・集団活動が苦手な利用者もいるが無理やり参加させるのではなく、職員も付き添い集団の中でその子なりに参加できる方法を考えている。
	15	支援開始前に職員間で必ず打ち合わせをし、支援の内容や役割分担について確認してい	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムは一週間前に見直し、当日の朝にも見直しをして、二重で確認出来ている。 ・朝のミーティングで確実に行えている。変更があつて

適切な支援の提供		るか				<p>もすぐに対応出来ていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出勤後にミーティングの時間を設け確認事項を共有している。 ・職員全員でその日の子どもや活動の担当者を確認している。自分の担当する活動や子どもが分かるように活動プログラムにマーカーをひいている。他の職員の活動も把握出来るので、スムーズに支援が行える。
	16	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・反省のみならず今後は良かった事にも多く気づけるようになるが良い。 ・支援終了後に支援の振り返りを行い大切な内容については後日職員会議でも共有している。 ・送迎後、事業所の掃除を終え約15分程かけて振り返りを行っている。気づいた事は共有するようにし、その日の欠席者にはノートに記録し共有している。ミーティングが終わった後も職員間で子どもの気になる事を話し合う事もある。
	17	日々の支援に関し正しく記録をとる事を徹底し、検証・改善に繋げているか	80%		20%	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では、子どもの名前は「さん」付け、職員の名前は名字で書く事を徹底している。 ・支援終了後は支援の振り返りだけでなく記録をとる時間も確保している。 ・支援終了後のミーティングの前後等や空いている時間に記録をとっている。時間が空くと正確に書けなくなる事もあるので当日中に記録をとるように努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	80%	20%		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者のモニタリングに限らず支援会議でも行っている。 ・支援会議を実施しモニタリングを行い、個別支援計画の内容の確認や支援方法を見直している。 ・子どもの様子や気になる事はチームに報告している。個別支援計画のねらいを話し合う時間で見直しの必要性を判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	60%	20%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援や創作活動、地域交流、余暇の提供を子どもが経験出来るよう支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	学校との情報共有（年間予定下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等）を適切に行っているか	80%	20%		<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生と統一した支援内容が増えてきたが、まだまだ行っていきたい。 ・子どもの様子等の情報共有は毎回行っている。連絡調整は必要に応じて行っている。 ・学校からの情報を職員間で共有できるように努めているが、時々忘れてしまう事があるので、重要な事に関して共有出来るように改善したい。
	21	相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した者が参画しているか	80%	20%		<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に相談支援事業所が設立された事が大きい。 ・児発管兼管理者が参加している。 ・普段、支援に携わっている職員が多く出勤している日に子どもについての話し合いを行っているので、どの職員も子どもの状況に精通している。
	22	就学前に利用していた保育園・児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	40%	40%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・足りていないと思うので、今後努めていきたい。（法人内の児童発達支援事業所を卒園してきた子は除く。） ・法人内にあるところ園との情報共有は、出来ている。 ・相談支援事業も行っている児童発達センターと子どもについて情報共有を行って来た事がある。

関係機関や保護者との連携						・上司が情報をチームに共有してくれる。職員間で情報共有や話し合いを行い、子どもを受け入れられるように努めている。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	60%	20%	20%	・相談支援事業所を通して行っている。 ・卒業される児童の保護者へ「情報提供が可能」なことを伝え、要望があれば行えるようにしている。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	60%	20%		・言語聴覚士の研修を受けたり作業療法士を招いて支援に関する助言を受けている。 ・コロナ禍のため外部研修への参加が難しい中でも、人数を制限する等して研修を受けられる事がある。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	40%	60%		・コロナの関係で難しいが、交流の機会を設けたい。 ・コロナ禍のため意図的に交流する機会は設けていないが、地域での活動の際交流する機会はある。 ・普段一緒に遊んだり交流する機会はないが、地域の公園に障がいのない子もいる事があり、そのような機会があれば自然に遊べるように心掛けている。
	26	自立支援協議会へ積極的に参加しているか	40%	40%	20%	・児発管兼管理者が参加している。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			・ミーティングで申し送り内容も共有出来ている。 ・送迎時の申し送りの時間や連絡帳を用いて情報共有を行っている。 ・子どもの発達の課題があった時には保護者に家庭での様子をお伺いしたり、どのように支援していくかを相談し合いながら常に共通理解を持てるように心掛けている。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	100%			・保護者研修会の開催率が高い。 ・法人主催の保護者研修会が毎月開催されている。 ・保護者から子どもに関する相談を受けた時には、事業所で行っている支援方法や成功体験に繋がった支援方法をお伝えしている。その後も子どもの様子等をお伺いし保護者の力になれるように努めている。
保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	80%	20%		・面談時に行っている。 ・主に契約時に説明を行っている。 ・分からない事は上司に確認し、内容を自分の中で整理してから保護者へ伝えている。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	80%		20%	・分からない事があれば一度事業所に持ち帰ってから相談し、助言内容や支援を職員でまとめている。 ・保護者からの相談があれば共有し、適切な助言や支援が出来るよう話し合っている。 ・相談を受けた際にまだ専門的な助言は不十分だと感じるが、その子と接して感じてきた事等も踏まえながら保護者の力になれるようにしていきたい。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	80%		20%	・コロナの関係で回数は少ないが行っている。 ・法人が開催する保護者会に職員も参加し、保護者との交流を深めたり支援を行っている。 ・保護者会の開催日を保護者に伝え、保護者が多く参加出来るようにしているが、自分自身は保護者同士の連携はまだ不十分だと感じるので努力したい。
	32	子どもや保護者からの苦情に				・苦情発生時の対応表を作成し、契約時に保護者にお

保護者への説明責任等		ついて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	80%	20%	渡している。 ・苦情があった際にはすぐに上司に報告をしている。職員間で話し合い再発防止策を早く保護者に伝えられるように努めている。
	33	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%		・毎月しっかり発行している。 ・毎月お便りを発行している。前月の活動内容や子育てトピック・コロナ感染予防対策等を記載している。 ・職員が交代でお便りを作成している。毎月決まった日にちに配布できるように事前に準備している。行事予定はお便りだけでなく申し送りの際にもお伝えし連絡漏れが無いようにしている。
	34	個人情報に十分注意しているか	80%	20%	・個人情報の記載された回覧物には取り扱いのルールを作っている。鍵付きの書庫に個人情報が記載された書類を保管している。 ・事業所と保護者間の連絡帳や個別支援計画の内容が記載された活動計画書も個人情報の一つだと思うので、他の子どもが誤って見る機会を作らないよう配慮している。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%		・子どもに合ったコミュニケーション方法を随時見つけている。 ・絵カードを作成し、子どもからの意思が汲み取りやすくなった。タイムタイマー等の口頭以外で知らせる方法を活用している。 ・子どもの表現しやすい意思疎通の方法を職員や保護者と共有し、その方法で子どもが意思疎通できるよう環境や物を整えている。子どもが実際に意思疎通を図ってきた時は見落とさず対応できるよう配慮している。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	80%	20%	・関係はまだ不十分であるが努力はしている。 ・以前は運動会等を行っていたが、コロナ禍で現在は難しい状況だと思う。 ・コロナ禍のため中止となっているが地域交流カフェを開催し、子ども・保護者・地域住民が利用している。 ・現在、事業所内で行事をする事がコロナ禍で難しいため地域住民を招待・交流する事は出来ないが、近所の散歩等で出会った時は挨拶を心掛けている。
非常時の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	60%	40%	・職員会議の際に毎回読み合わせを行っている。 ・マニュアル類は職員会議で読み合わせている。保護者には事故発生時の対応表等をお渡ししている。 ・職員会議の際に複数あるマニュアルを順番に読み合わせている。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	80%	20%	・定期的に訓練を行っている。 ・各曜日で行えるようにしている。 ・地震・津波・火災・不審者対応等を想定し、訓練を行っている。 ・3か月に1回は非常事態を想定した訓練を行っている。非常事態のパターンごとに全曜日で訓練を行い、子ども・職員が全員参加できるように計画を立てているが、実際には天候や職員配置によって実施できない日もある。

非常時の対応	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修・外部研修に多く参加させて頂いている。 ・虐待防止のマニュアルを作成し、予防のためのセルフチェックリストも職員会議で読み合わせている。 ・虐待に至らないように職員間で話し合っている。自分の言動が虐待にあたるのか不安な時は、他の職員に相談し虐待防止に繋げている。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	60%	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止マニュアルに則って身体拘束に至る前に出来る支援を考えた上で、やむを得ない状況がある時に備え、保護者(子ども)に相談し、同意を得ている。 ・管理者が保護者に同意を得てくれている。チーム内で事前に話し合い全員が対応方法を知った上で、普段からやむを得ない状況を想定し支援を行っている。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	60%	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、医師の指示書がある食物アレルギーの子どもはいないが、いた場合や保護者から申し出のあった場合は、その食物は提供しない。 ・子どもの食物アレルギー一覧をまとめたものがある。万が一食べてしまった場合の対応方法も記載されている。食事を提供する際には、その表を活用している。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、職員会議時に共有している。 ・職員会議(週1回を目安に開催)で行えている。 ・職員会議でヒヤリハットを報告する時間を設け、業務改善を行い事故防止に努めている。 ・週に1回は職員会議でヒヤリハットを報告し、皆で再発防止策を話し合っている。ヒヤリハットを見返す事が出来るようファイリングされている。